

1. 梱包内容

以下の部品が梱包されていることをご確認ください。品不足や外観に異常が認められる場合には、お買い求め先にご連絡ください。

左側ラックフレーム 1 個、右側ラックフレーム 1 個、センターブラケット 2 個、アッパーブラケット 1 個、リアーブラケット 1 個、ラックフレーム用スペーサ (ケース A 用) 2 個、センターブラケット用スペーサ (ケース A 用) 2 個、皿小ねじ (M5、ねじ長さ : 14mm) 8 本、バインド小ねじ (M3、ねじ長さ : 8mm) 2 本、バインド小ねじ (M4、ねじ長さ : 6mm) 5 本、目隠しシール 12 枚

2. ラックマウントするときの部品の取り外し方法 (1 台当たり)

・取っ手と前部側脚の取り外し

注意：取っ手は取り外すと、再取り付けができなくなる可能性があります。

1. マイナスドライバを矢印 A の方向に差し込み、取っ手カバー (a) を持ち上げるようにして外します (2 箇所)。外れにくいときは、他の工具で取っ手カバー (a) の両端を左右に広げるようにして、持ち上げてください。
2. 取っ手の取り付けねじ (b) を外します (2 箇所)。

・底部の脚の取り外し

1. 脚 (c) に黒色ピン (i) がはめ込まれているタイプでは、黒色ピン (i) を図のように細目のマイナスドライバーを使用して引き抜きます (4 箇所)。
 2. 矢印 B の方向 (測定器本体後方) に力を加え、脚 (c) をスライドさせます (4 箇所)。
 3. 矢印 C の方向 (下方) に力を加え、脚 (c) を外します (4 箇所)。
- 前部の脚 (c) を外すと、スタンド金具 (d) も外れます。

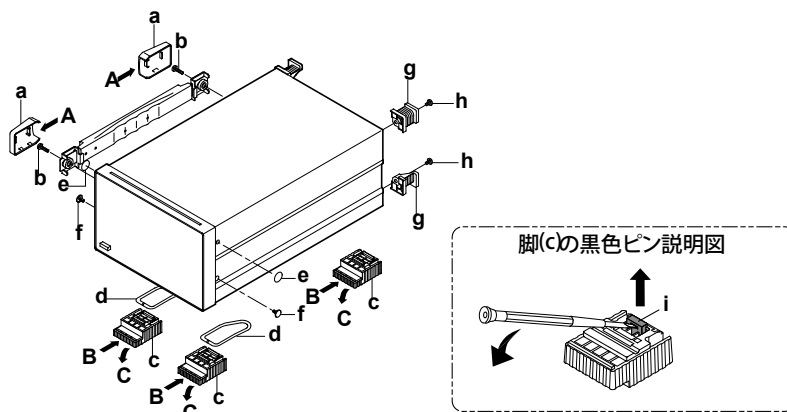
・目隠しの取り外し

1. 目隠し用シール (e) をはがします (2 箇所)。
2. 目隠しプラグ (f) を引き抜きます (2 箇所)。

・リアーブロックの取り外し

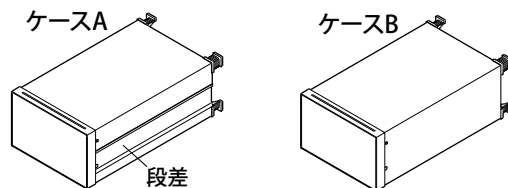
リアーパネルからリアーブロック (g) を、取り付けねじ (h) を外すことにより取り外します (2 箇所)。

注意： 左側測定器は、リアー側から見て左側のリアーブロック
右側測定器は、リアー側から見て右側のリアーブロック



3. 対応ケース

以下の2種類のケースに取りつけられます。ケースAに取りつける場合は、付属のスペーサを使用します。



4. ラックマウント金具の取り付け方法

1. 左側測定器と右側測定器の取っ手取り付け穴(4箇所)と脚取り付け穴(8箇所)に目隠しシール(1)を貼ります。

2. 左側測定器本体の左側部に、左側ラックフレーム(2)をM5×14mmの皿小ねじ(3)で取り付けます(2箇所)。

ケースの形状がケースAの場合は、ラックフレームスペーサ(7)を使用してください。

左側測定器本体の右側部に、センターブラケット(A部が角穴の方)(4)をM5×14mmの皿小ねじ(3)で取り付けます(2箇所)。

ケースの形状がケースAの場合は、センターブラケットスペーサ(8)を使用してください。

締め付けトルク参考値：2.8～2.9N・m

3. 右側測定器本体の右側部に、右側ラックフレーム(5)をM5×14mmの皿小ねじ(3)で取り付けます(2箇所)。

ケースの形状がケースAの場合は、ラックフレームスペーサ(7)を使用してください。

右側測定器本体の左側部に、センターブラケット(A部が突起の方)(6)をM5×14mmの皿小ねじ(3)で取り付けます(2箇所)。

ケースの形状がケースAの場合は、センターブラケットスペーサ(8)を使用してください。

締め付けトルク参考値：2.8～2.9N・m

4. 左側測定器と右側測定器とをセンターブラケット(4)(6)のA部、B部をはめあうようにして連結し、M4×6mmのバインド小ねじ(11)で取り付けます。A部が突起形状のセンターブラケットのB部を、A部が角穴のセンターブラケットのB部に被せるように連結してください。

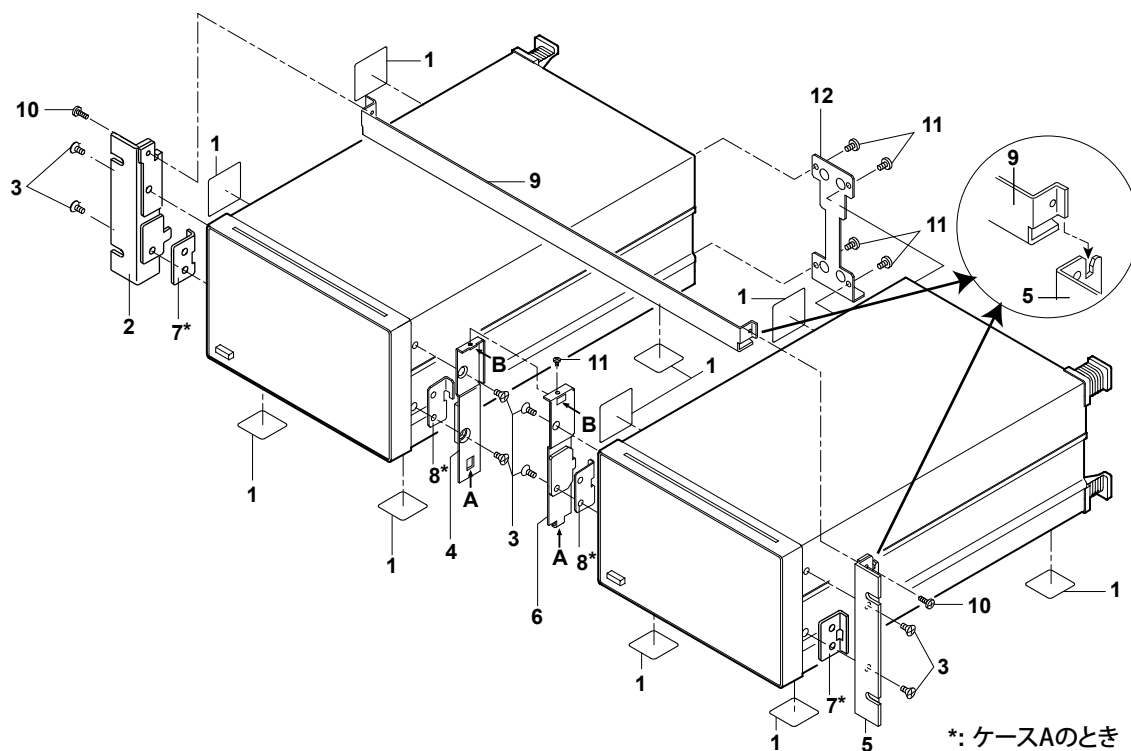
締め付けトルク参考値：1.4～1.5N・m

5. アッパーブラケット(9)を右側および左側のラックフレームにM3×8mmのバインド小ねじ(10)で取り付けます(2箇所)。アッパーブラケットの先端を左右のラックフレームの溝部にはめて、取りつけてください。

締め付けトルク参考値：0.6～0.7N・m

6. 左側測定器リアー部と右側測定器リアー部とにリアーブラケット(12)をM4×6mmのバインド小ねじ(11)で取り付けます(4箇所)。

締め付けトルク参考値：1.4～1.5N・m



5. ラックへの取り付け方法

下記の寸法に従って取り付けてください。

- 注意： 1. 必ず下からの支えを測定器底面の通風穴を避けて施してください。
2. 通風のために測定器の周囲に 100mm 以上の空間を確保してください。

